東京学芸大学リポジトリ
Tokyo Gakugei University Repository

「現地主義」に基づくフィールドワークの応用地理教育的研究 海外の研究対象地域における研究開発：韓国全州市韓屋マウル（村）の事例を中心に（フォーラム）

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-03-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 古田,悦造 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/166775

学芸地理 76 号 2020 年 pp.28-36

「現地主義」に基づくフィールドワークの応用地理教育的研究
海外の研究対象地域における研究開発
―韓国全州市韓屋マウル（村）の事例を中心に―

古田　悦造*

キーワード：現地調査，韓屋家屋，韓国全州市，地理学方法論

Ⅰ　はじめに

地理学研究においては，地理学史を研究しようとする場合を除けば，「現地主義」すなわち現地としての研究対象地域での調査が，必要不可欠になる．現地調査のみならず先行研究の検索方法も，外国をフィールドとして研究する際には日本での場合とは異なる点が多い．

本稿では，韓国を取り上げ，殊に「韓屋マウル（村）」に興味・関心を持った場合の研究開発の事例を中心に記述する．

Ⅱ　問題の発見

研究を進める上で最も重要な点は，問題の発見あるいは研究の目的を明確に設定することである．問題を発見あるいは研究の目的を見いだすためには，2つの道筋が想定される．1つは【読書派】の進め方であり，他の1つは【行動派】の方法である．いずれの場合においても，「現地主義」すなわち研究対象地域における現地調査は，特に地理学的研究にあっては不可欠である．図1は，この2つの手続きを図式化したものである．

【読書派】は，一言で言えば文字を読むことが好きなタイプである．ただし，「文字を読むこと」と「文章が理解できたこと」とは異なる．この場合，自らの興味・関心に基づき，いわゆる啓蒙書から読み始めることも多くの知識を得るには有効である．

しかし，この段階を一歩進めて，専門書できれば学術雑誌の研究論文を読むことが好ましい．そして，「この記述内容は本当なのか」あるいは「ここで扱われている要因のみで説明が付くのだろうか」といった疑問を持つことが，問題発見や研究目的を生じさせる意識として有効である．換言すれば，専門書や学術雑誌の研究論文の記述内容を，過度に信用せずに疑いつつ文章を読み進め，深く理解する姿勢を身に付けなければならない．

これに対して【行動派】は，現地あるいは地

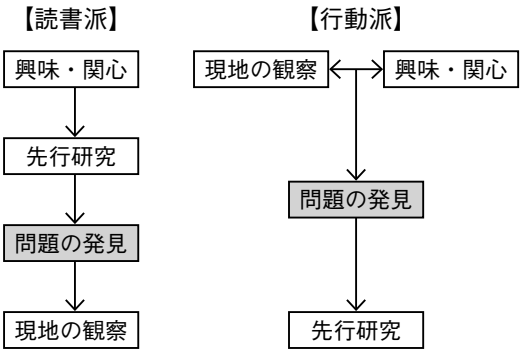


図1　「問題の発見」における2つの方法

* 東京学芸大学名誉教授

域を見て歩くことが好きなタイプである．かつて，恩師の１人である故・菊地利夫先生から次のようなお話を伺ったことがある．「第二次大戦後に千葉大学の教官時代，講義の教材集めで房総半島を巡っていた時，かつて江戸時代の初頭には干潟であった椿海の夕映えの干拓された田園風景を見て感動しました．この広大な面積の干拓によって，周辺の中世起源の村落はどんなにか変化したであろうか．この感動と問題の発見が後の『新田開発』の研究へと進んだと考えています」（筑波大学での最終講義）．その後，江戸時代に新しく開発された新田をあちらこちらと調査した，との発言であった．しかし，どの新田でも同じような様相の村落で研究に行き詰まった，とのことであった．その折に，水利慣行研究の大家であった故・喜多村俊夫先生から「菊地君，もっと飛べ飛べ」との言葉を聞き，東北地方から九州地方に至る全国の新田集落を調査され，東北大学から理学博士の学位を取得される『新田研究』に集大成された，とのお話しを聞いた．まさに，地域比較による相異点と共通点を見いだされたことになる．

研究の方法において，研究対象の地域や事象を３つに類型区分することが多い．これは，両極端とそれらの中間という３つに分けることが，対象とする地域や事象の全体像を把握でき，研究の遂行を容易にするためといえる．

写真１のような景観を，書籍で見た場合と韓国での旅行中に見た場合を想定してみよう．前者は【読書派】の場合で，後者は【行動派】の場合に当たる．ここで再度，図１を検討しよう．良く見れば，「興味・関心」・「現地の観察」・「先行研究」・「問題の発見」の４つの項目は，いずれも同一である．しかし，その相互の位置関係はかなり異なっている．

【読書派】の場合は，この景観を書籍の中で見ているため，文章からその概観や背景に存在する要因の一端を知ることができる．しかし，前述のように批判的に文章を理解し，かつ疑いつつ読む必要がある．このため，当該の書籍以外の他の文献や研究論文にあたり，従来の研究

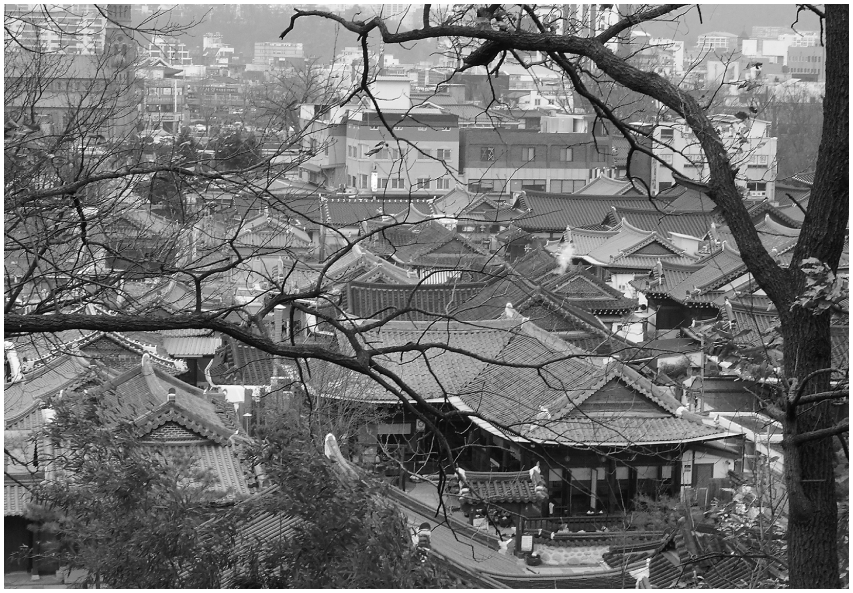
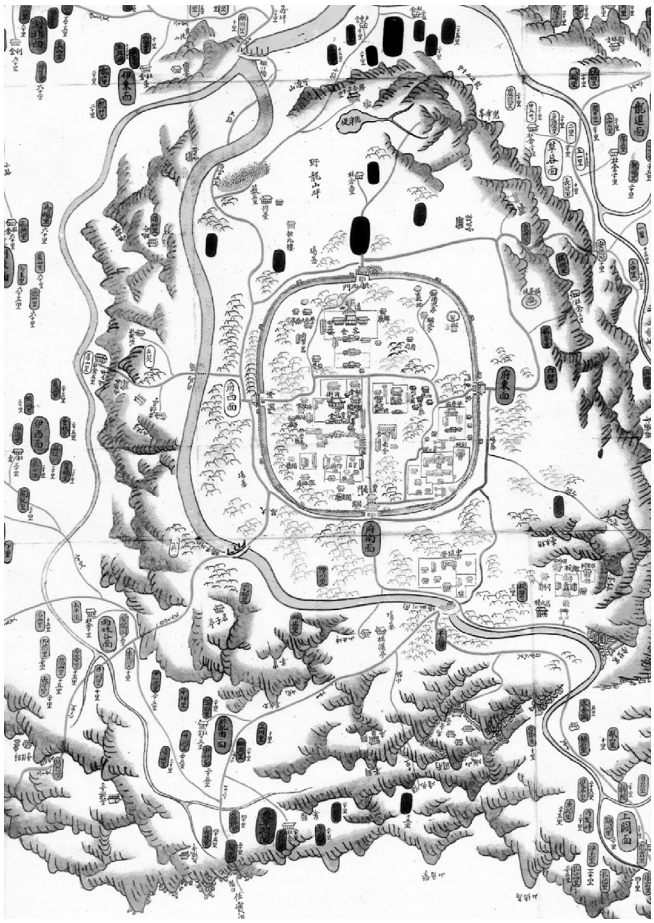


写真１　梧木台から眺めた全羅北道全州市内の韓式家屋の景観（2014年2月筆者撮影）

成果とは異なった問題の発見あるいは研究の目的を見いだし，作業仮説に基づいて現地を観察することとなる．このことは，図1に示すように【読書派】の研究の順序が，「興味・関心」→「先行研究」→「問題の発見」→「現地の観察」の手続きで進むことを意味している．

【行動派】の場合は，ソウルから釜山への旅行の途中に全羅北道全州市に立ち寄った際に，市街地にあった観光案内所で入手した日本語で書かれた「全州旅行マップ」（無料）の情報に依って，梧木台からこの景観に巡り会うことになる（写真1）．そして，全羅北道立博物館において図2の古地図を目にして，この町がかつては城壁に囲まれていたことを知る．先ほど見た韓式家屋が集中していた地区が，城壁内部の南東部に位置していることから，歴史的要因にも関心を寄せることになろう．この場合は，【読書派】と異なり基本的には書籍や論文からの知識は得ることができない．あくまでも推測あるいは憶測の域をでるものではない．このため，過去の経験が大いに生かされることとなる．同じ韓国内のソウル市内の北村韓屋マウル（村）や慶尚北道安東市の河回マウル（村）の景観と比較し，日本の白川郷の合掌造りの村落景観や



『朝鮮後期地方地図　全羅道編』ソウル大学校奎章閣による。

図2　全羅北道全州市の古地図

金沢市内の野町の町並みと比べるなど，それまでの自らの経験から問題を発見することとなる．

たとえば，「今日は日曜日で観光客らしき人々が多いが，どこから来ているのだろうか」といった素朴な疑問や「この韓式家屋はいつごろからのものだろうか．修復・復原された建物はないのだろうか」などの問題発見である．この問題意識に基づき，韓国での滞在中あるいは帰国後に書籍や論文にあたることになる．このことは，図1に示したように【行動派】の研究の順序が，「現地の観察」→「興味・関心」の相互作用→「問題の発見」→「先行研究」の手続きで進むことを意味している．このように【行動派】の場合には，多くの地域で多くの事象を知っていることが不可欠となってくる．換言すれば，【行動派】においてはある程度の知識を前提としなければ，現地において景観を観察しても「問題の発見」には至ることはない，といっても過言ではなかろう．

【読書派】あるいは【行動派】のいずれの場合であっても，たとえば「**全州市の韓式家屋と観光化とは関連しているのではないか．そして，市行政の施策や地域住民の経済が大きく関与しているのではないか**」との作業仮説を立てることができる．そして，

韓国全州市における韓式家屋の修復過程と観光化

Ⅰ．はじめに
Ⅱ．韓国における韓式家屋集落の分布
Ⅲ．全州市の韓式家屋の修復過程
Ⅳ．韓式家屋の修復の諸要因
　1．行政の取り組み
　2．観光資源との関係
　3．伝統文化との関連
Ⅴ．おわりに

などといった論文構成を仮に創ることができよう．勿論，この論文構成は，調査が進展するに従って修正されることとなる．論文構成，換言すれば論文のプロットを可能な限り早めに作成することが，論文の内容をより一層充実したものにすることができる，と考えている．この点は，参考にしていただければ幸甚である．

Ⅲ　発見した問題を理解するために

1）　先行研究の検索方法

日本の著作・研究論文の検索方法に関しては，既に授業などで周知のことと思われる．ここでは，韓国の著作・研究論文の検索方法について述べる．なお，本節の記述にあたっては，本学附属図書館の高橋隆一郎氏のご教示に基づいている．

かつて，筆者は東京学芸大学地理学会の機関誌に「韓国の牙山湾沿岸における干拓事業と地域開発」（『学芸地理』55, 2000, pp.15～28）を投稿した．そこで，これを参考に「牙山湾」，「干拓」「地域開発」をキーワードとして，

①　「RISS」 http://www.riss.kr/index.do

で「国内学術誌論文」（この場合の国内は韓国のこと）を検索すれば4点の研究論文を得ることができる．さらに，インターネット上で研究論文を印刷することも可能である．しかし，この場合には有料であることが多く，韓国の規定に従って登録する必要があり，かつ韓国国内で銀行口座を有するなどの条件がある．

また，書籍に関して検索したい場合には，

②　国立中央図書館目録　http://www.dibrary.net/

が便利である．たとえば，「牙山湾　開発」をキーワードとして検索すれば，4件の書籍の存在を知ることができる．

2）　資・史料の収集方法

地形図について．地理学的研究においては，

地図類特に地形図の入手が重要な事項となっている．中国においては，大縮尺の地形図の入手はほぼ不可能といわれている．2001年6月にベトナムに行った折に，現在は世界遺産になっているハーロン湾沿岸地域の土地利用調査のために，大縮尺の2万5千分1地形図を入手しようと試みたことがあった．その結果については記さないが，多くの国々において軍事的観点から地形図（地図帳ではない）の入手が困難なことが多い．殊に，いわゆる新興国や後進国においては，その困難度は最たるものがある．村落調査など極めてミクロ・スケールな地域を対象とする場合には，コンパス（磁針）と自らの足を用いた歩測によって，簡略ながら地図を作成することは可能である．まさに，井上ひさし著『四千万歩の男』の伊能忠敬の世界である．

さて，韓国の場合には地形図の入手が比較的容易である．以前は，パスポートを提示し，店員が購入した地形図ごとにパスポート番号をノートに記帳していたが，近年はパスポートの提示も必要がなくなっている．しかも，5万分1や2万5千分1の地形図のみならず，5千分1の地形図の購入も可能である．商店街や農家の調査など家屋1軒ごとの調査が必要な場合には，極めて便利である．韓国政府が刊行する地形図は，ソウル市中心地の鐘路にある「中央地図」で全国のものが購入できる．地形図のスケールにも依るが，1枚おおよそ5千ウォン前後（当時500円相当）である．

ただし，**国外への持ち出しは禁止されているので，十分に注意する必要がある．**ちなみに，地形図の欄外には「注意事項」として，韓国語（ハングル）と英語で「国外搬出および本地図を利用した地図の刊行」が禁止されていることが明記され，違反した場合には「**2年又は1年以下の懲役，2,000万ウォン又は1,000万ウォン以下の罰金**」と記載されている．これに対し，道路地図や教科書および小・中学校や高等学校使用されている地図帳は，書店でも購入でき，国外への搬出も可能である．

書籍について．韓国政府や関連する官庁・研究所で刊行されている統計書や報告書は，最近の書籍ならばソウル市中心地の鐘路にある「教保文庫」や「永豊文庫」で購入することが可能である．また，関連する専門書は書店で見たならば，その場で購入することを勧める．「次に来たときに買えば良い」などと考えていると，絶版などで既に購入できないことがある．

書籍はまとまると結構重量がある．韓国の場合，「教保文庫」などで日本への郵送手続きを実費で請け負ってくれる．また，ソウル中央郵便局などの大きな郵便局でも，日本への郵送業務を比較的安価で行っている．利用すれば，飛行機での重量オーバーを気にせずに，多くの書籍を購入し日本へ送ることができる．しかも韓国の書籍は，日本と比べ相当安価である．

Ⅳ　現地調査での留意事項

写真撮影の問題．　地理学の調査であれば，現地の景観を示す写真を撮ることが多い．かつては高い場所からの撮影，たとえばソウルタワーの展望室から写真撮影が禁止されていた（確か緩和されたのは1988年のソウルオリンピックの時と記憶している．その時点でも釜山の釜山タワーの展望室からの撮影は禁止されていた）．現在（2014年）でも，軍事施設の写真撮影は禁止されている．筆者も20年ほど以前に，「植民地時代における日本人漁民の朝鮮半島への出漁漁村」の現地調査の折に，東海岸の江原道に位置する漁村で村落の写真を撮っていたところ，釣り人が怪訝そうな顔をして釣りもほどほどに，彼等がその場を去っていった経験がある．同行していただいた韓国人の大学教員

の話では，我々をスパイとみなしていた，とのことであった．当時，ソウル市内の地下鉄内で，白い猫の母親の乳を飲んでいる数匹の白い子猫の中に1匹の黒い子猫の絵が描かれ，横に112と113の電話番号が印刷されていたポスターをよく目にした．

言葉の問題．韓流ドラマの影響か，最近の韓国旅行のガイドブックには留意事項として少なくなったが，論文などで歴史的用語として使用する場合を除いて，日常会話で「朝鮮人（ちょうせんじん）」との発言はすべきではない．基本的には「韓国人（かんこくじん）」を使用し，どうしても「朝鮮人」を使用しなければならないならば韓国語（ハングル）の発音で，「チョソニン」と発音すべきであろう．韓国で「朝鮮日報」との名称の新聞も刊行されているが，韓国の人々は「朝鮮」という言葉に対して，植民地時代の影響と現在の朝鮮民主義人民共和国（北朝鮮，韓国では北韓（プカン）と称する）との関係から嫌うことが多い．日本人である私たちは，極力この言葉の使用は避けるべきであろう．韓国（大韓民国）と北朝鮮（朝鮮人民民主義）との関係は，未だ休戦状態であることを再確認していただきたい．韓国語（ハングル）によほどの自信がない限り，韓国人の通訳を依頼した方が無難である．

博物館等の利用．日本と同様に韓国においても，ソウルを中心として多くの博物館がある．ソウルには韓国中央博物館があり，各地方には道立（ほぼ日本の東北地方などの地方区分に相当する）博物館が立地している．当該の地域の地域調査を実施するに際しては，このような博物館を見学して，その地域の地理的・歴史的・経済的・民俗的さらには文化的概観を把握することは必要であろう．各博物館では，展示図録が販売され，若干高いものの日本語の図録も購入が可能である．

ソウルを中心として，テーマに即した博物館も多く存在している．たとえば，ソウル市には「農業博物館」，「ソウル歴史博物館」，「餅博物館」，「国立民族博物館」，「韓国仏教歴史文化記念館」，「大韓民国歴史博物館」，「国立古宮博物館」，「警察博物館」，「韓国銀行貨幣金融博物館」，「西大門刑務所歴史館」，「戦争記念館」など多くの博物館や記念館があり，自らの興味・関心に則して見学することを勧めたい．また，市役所などで当該地域の資料を収集することが多くなることは当然としても，他の公的機関の資料室を利用することも可能である．たとえば，観光に関しては韓国観光公社の建物の地下1階には資料室があり，観光に関する統計書をはじめ多くの文献資料が閲覧できる（写真2）．

観光に関する調査の場合には，金銭面に関係する経済的資料では資料収集が困難であっても，現地調査で歩いていても目にする案内板などで一定の資料とすることができる場合がある．

写真２　ソウル市中心部にある韓国観光公社の資料室（2014年2月筆者撮影）

写真3は，現地調査で目にした案内板である．この写真からでも多くのことが分かる．たとえば，左上の①の宿泊施設の名称が「韓屋生活体験館」で，収容人数は9室20人であること，さらに手書きの民泊がこの看板の設置後の最近できたことが明らかである．他の宿泊施設に関しても，その場所と収容人数が分かり，規模別の分布図の作成が可能となる．

写真4は，「ナムゴク（南国か）」の名称を持つ民泊の看板である．また写真5は，その玄関にあった韓国観光公社長の押印のある認証書である．この2つの写真から，この民泊が2011年8月1日に認定された新しい宿泊施設であることが把握できる．さらに，写真3と照合すれば，看板の手書きの宿泊施設が，2011年8月以降の新規の民泊であることも分かってくるのである．ちなみに，写真4と写真5の「ナムゴク（南国か）」の民泊は，写真3の右上の3番目に

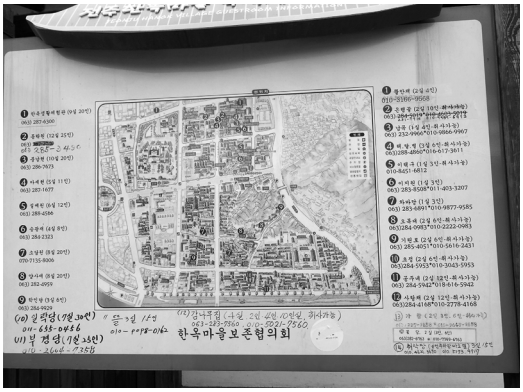


写真3　全州市中心部にあった民泊（日本の民宿）の案内板（2014年2月筆者撮影）

写真4　全州市中心部にあった民泊の看板（2014年2月筆者撮影）

写真5　全州市中心部の民泊の玄関にあった韓国観光公社長の押印がある認証書（2014年2月筆者撮影）

記載されている③の宿泊施設で，1室で収容人数も4人に過ぎない小規模ではあるが，炊事（自炊）が可能なことが分かる．

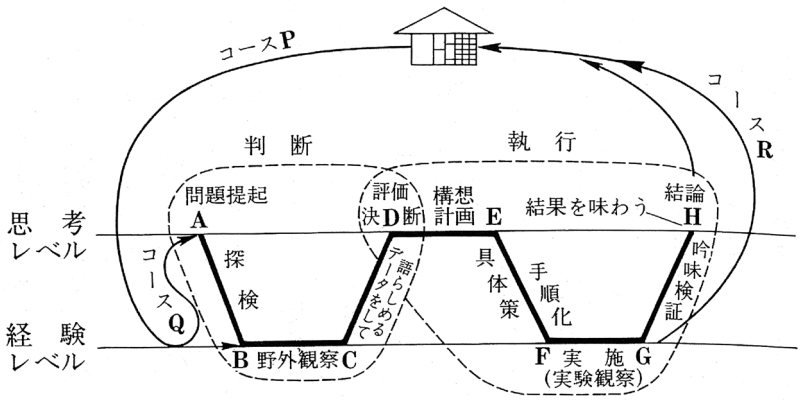
この程度ならば，韓国語（ハングル）が辞書を使用して理解できれば得られる資料となる．そうでなくとも，電話番号を照合するなどの工夫をすれば，この地区の宿泊施設の分布図の作成は比較的容易に作成できるはずである．

Ⅴ　おわりに

海外における現地調査においては，言語の問題・日本との歴史的経緯の問題・資料収集の難易度の問題などを避けることができない．特に，東アジアや東南アジアの諸外国を研究対象とする場合には，より一層の注意が必要である．このように海外での調査では，国内における調査とは異なる点が多い．このため，最初からの海外における現地調査は避け，国内での現地調査を十分に経験した上で，海外に出かけるように心掛けたいものである．

ところで．「KJ法」を提唱した地理学者で人類学者でもある川喜田二郎は．科学方法論としての「W型問題解決モデル」を提示している（図3）．本稿における【読書派】と【行動派】をこのモデルに即していえば．前者は「思考レベル」の，後者は「経験レベル」の色彩が強いといえる．ただし，研究の出発点として【読書派】はA→Bの方向を，【行動派】はB→Aの手続きを採用することとなる．人文地理学であろうと自然地理学であろうと現地調査を伴う場合には．このモデルの研究手続きが極めて有効で参考となろう．図3は川喜田（1996）から引用したが，この著作集の原本である『知の「知」の探検学 ―取材から創造へ―』と『野外科学の方法 ―思想と探検―』は，いずれも新書版で古書店でも比較的安価に入手可能と思われるので一読をお勧めしたい．

本稿は，2013年度の東京学芸大学の助成金に基づく「『現地主義』に基づくフィールドワークの応用地理教育的研究」（代表者：中村康子）の研究成果の内，筆者が担当した部分を加筆して成稿化したものである．資料的に古くなった部分もあるが，論旨は変わらないため若干の修正を加えるに留めた．なお，かつて全州の市役



川喜田二郎（1996）：『野外科学の思想と方法』（川喜田二郎著作集3）p.237による。

図3　川喜田二郎の「W型問題解決モデル」

所において全州の韓式家屋に関する報告書を謹呈していただいたが，退職時に処分したようで現在手元には，残念ながら残っていない．

参考文献

岩鼻通明（2005）：韓国都市における伝統的街並景観の保全と利用 ―ソウルと全州を事例に―，季刊地理学，57，pp.150-153.

川喜田二郎（1977）：『知の「知」の探検学 ―取材から創造へ―』講談社現代新書．202p.

川喜田二郎（1990）：『野外科学の方法 ―思想と探検―』中公新書．210p.

川喜田二郎（1996）：『野外科学の思想と方法』（川喜田二郎著作集3）中央公論社．504p.

樋口節夫（1978）：全州市Jeonju-siのCBD研究 ―その形成と発展について―，愛知教育大学研究報告（人文・社会科学），27，pp.283-294.

Applied Geographical Educational Research on Fieldwork Based on ‘Fieldism’

Method of Geographical Study in foreign country: A Case of Korian-style House Village in Jeonju, Korea

FURUTA Etsuzo*

Keywords：Field Servey，Korian-style House，Jeonju Koria，Method of Geographic Study

*Tokyo Gakugei University, professor emeritus